[下野国分（僧）寺跡（下野市）]探訪レポート

寺域の南西側から国分僧寺全域を見る

南大門前を東側から西側方面を見る

南大門跡付近

南大門跡から前方に中門跡、その奥に金堂跡を見る

手前の低い段差部分が中門跡、奥の高い段差部分は金堂跡

中門跡/向こうに金堂跡が見える

中門跡前を右に曲がると塔跡に至る

正面が塔跡

下野国分寺鳥瞰図(推定)
国分尼寺
東門
七重塔
僧房
北門
経蔵
金堂
現在地
講堂
鐘楼
中門
南大門
回廊
国分僧寺
西門
築地塀
下野市
※今から約1200年前の下野国分寺を西上空から見た様子

さて、元に戻り金堂跡を見る

金堂跡

金堂 kondo (main hall ; golden hall)

古代寺院で本尊(ほんぞん)をまつる中心的建物。金堂に作られた須弥壇(しゅみだん)の中心には、一丈六尺(いちじょうろくしゃく)の釈迦如来像(しゃかにょらいぞう)、脇侍菩薩(わきじぼさつ)二体を安置し、その四方には四天王が配置されていたと考えられます。

調査により全国でも類例のないような保存状況で、床石(礎(せん))や基壇外装の羽目石(はめいし)、地覆石(じふくいし)などが当時の状況で残っていました。基壇規模は、東西33.6m(112尺)、南北21m(70尺)、基壇の高さは約 90 cmです。基壇上の建物は、東西7間(ま)(25.8m)、南北4間(ま)(13.8m)で、桁行(けたゆき)の中央間が4.2mと広く両端方向に30cmずつ狭くなっていきます。礎石(そせき)は 1.5m四方のものが36個使われていました。1個の重さが約1トンと考えられます。南階段は、12m(40尺)の幅で、柱配置にあわせて三間(ま)に仕切られていました。金堂も最後は北側に倒壊しており、現在もこの下に大量の瓦が倒壊した状態で埋まっています。

右側面から金堂基壇、礎石位置を見る

前方は経蔵跡

経蔵 kyozo (sutra repository)

経蔵(きょうぞう)は経典をおさめた建物。下野国分寺では、金堂と講堂の中間部の東西に同様の建物が配置されていることが判明しました。規模はまったく同じで、いずれが経蔵か鐘楼(しょうろう)かわかりませんでした。現在、絵図などの例を参考に東を経蔵、西を鐘楼としています。基壇の規模は、南北 12m(40 尺)、東西9m(30 尺)と考えられます。建物は、南北(3間)9m、東西(2間)6mの規模で、現存する法隆寺の鐘楼・経蔵と同様の2階建てと考えられます。経蔵は礎石の多くが残されており、最後は火災により焼失しました。その際、礎石に柱の焼けた痕跡がついており、その痕から柱の直径が30cmであったことがわかりました。また、基壇の周囲から落下瓦が出土していることから屋根は切妻(きりづま)造ではなく、寄棟(よせむね)造か入母屋(いりもや)造のような形だった可能性も考えられます。

経蔵の柱の位置がっ復元されている

講堂跡

講堂の基壇と礎石跡

左手に講堂跡、正面に経蔵あと、右手に金堂跡を見る

講堂跡から後方にある僧坊跡を見る

僧坊跡から振り返って講堂跡を見る

鐘楼跡

調査隊の補助員が立つ所は金堂跡（左手前方）から続く回廊跡

金堂跡と回廊跡の取り合い部アップ

回廊跡が回る

左手が金堂跡、右手は中門跡

回廊跡から右手前方に金堂跡を見る

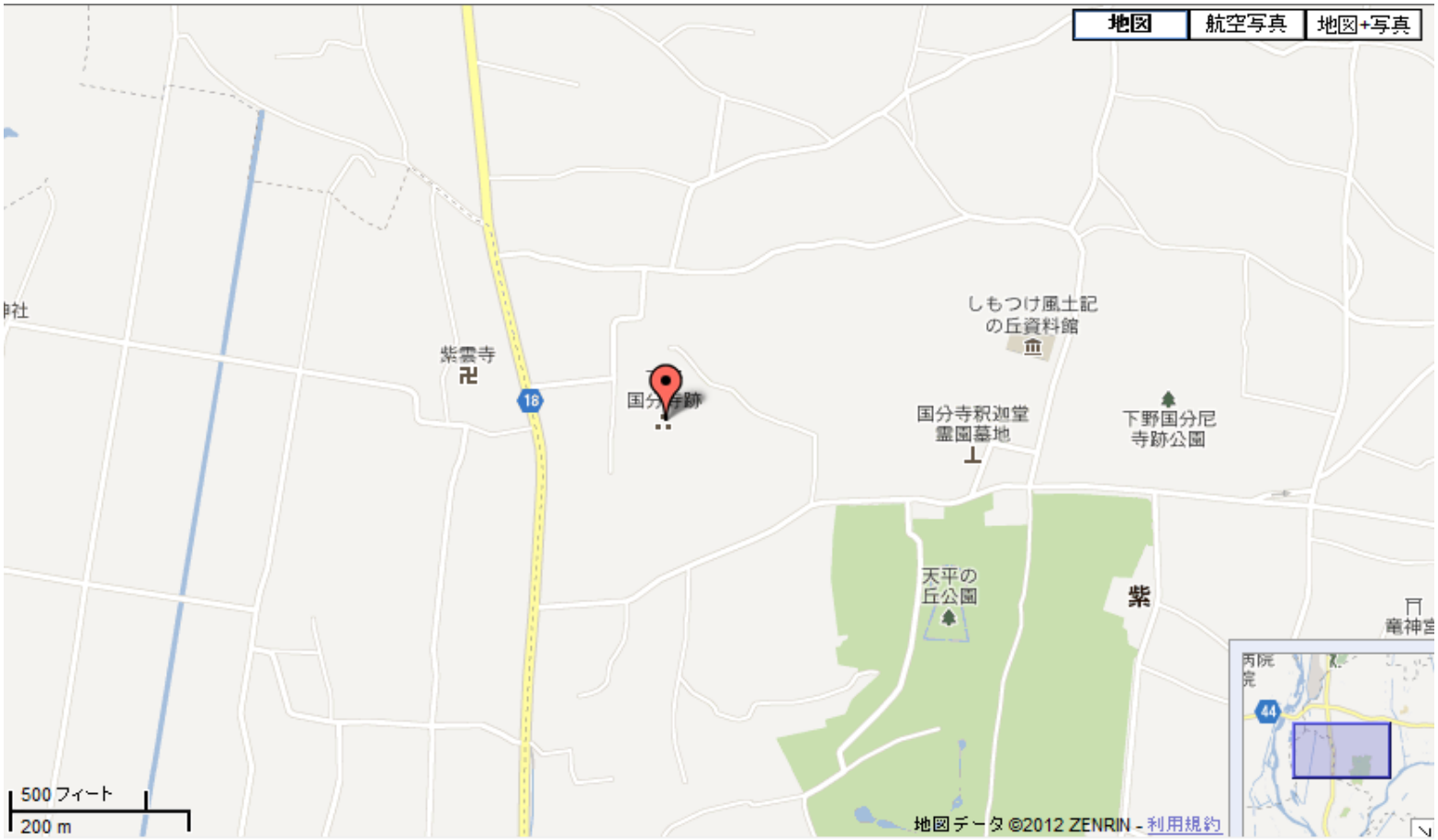
回廊が中門（正面前方）に繋がっている

南大門前から東側を見る

参考ホームページ

http://www.city.shimotsuke.lg.jp/hp/page000002400/hpg000002382.htm

http://orange.zero.jp/kkubota.bird/shimotuke.htm



地図
航空写真
地図+写真
栃木ミツカン
いちご研究所
東武宇都宮線
壬生一里塚
藤井小
壬生高
旭自動車
平川幼稚園
野州大塚
国府局
296
183
146
下野
薬師寺跡
栃木刑務所
花見ケ丘G
下野市
野州平川
惣社今井バイパス
自治医大病院
自治医大
祇園小
オートバックス
大宮北小
光永寺
東陽中
星風会病院
星風院
44
18
国分寺西小
336
南河内第二中
下野市役所
東北本線
国分寺跡
国分寺運動公園
烏ケ森公園
下野国庁跡資料館
天平の丘公園
国分寺中
小山富士見台病院
市役所南河内庁舎
琵琶塚古墳
小金井
小金井自動車学校
日光線
大宮南小
国分寺東小
森製作所
Honda Cars
243
若駒酒造
妙典寺
国分寺変電所
豊田北小
羽川西小
両毛線
33
小山扶桑局
羽川小
339
東北新幹線
新4号バイパス
4
50
小山
結城
1 マイル
1 km
地図データ ©2012 Google, ZENRIN - 利用規約

栃木県立しもつけ風土記の丘資料館（下野市）

前方にしもつけ風土記の丘資料館がある

しもつけ風土記の丘案内図

ー風土記の丘資料館と古代遺跡めぐりー

見学コース例

① 全周コース（徒歩約 4.5 時間、10km）
資料館→伝紫式部の墓→琵琶塚古墳→摩利支天塚古墳→下野国分尼寺跡→下野国分寺跡→愛宮塚古墳→丸塚古墳→国分寺薬師堂→資料館

② 北半周コース（徒歩約 2.5 時間、5.5km）
資料館→下野国分尼寺跡→下野国分寺跡→愛宮塚古墳→丸塚古墳→国分寺薬師堂→資料館

③ 南半周コース（徒歩約 3 時間、6.5km）
資料館→伝紫式部の墓→琵琶塚古墳→摩利支天塚古墳→下野国分尼寺跡→下野国分寺跡→資料館

④ 自転車を利用するコース（約 4.5 時間）
資料館・国分寺跡周辺→琵琶塚・摩利支天塚古墳→下野国庁跡→吾妻古墳→牛塚・車塚古墳→下野薬師寺跡

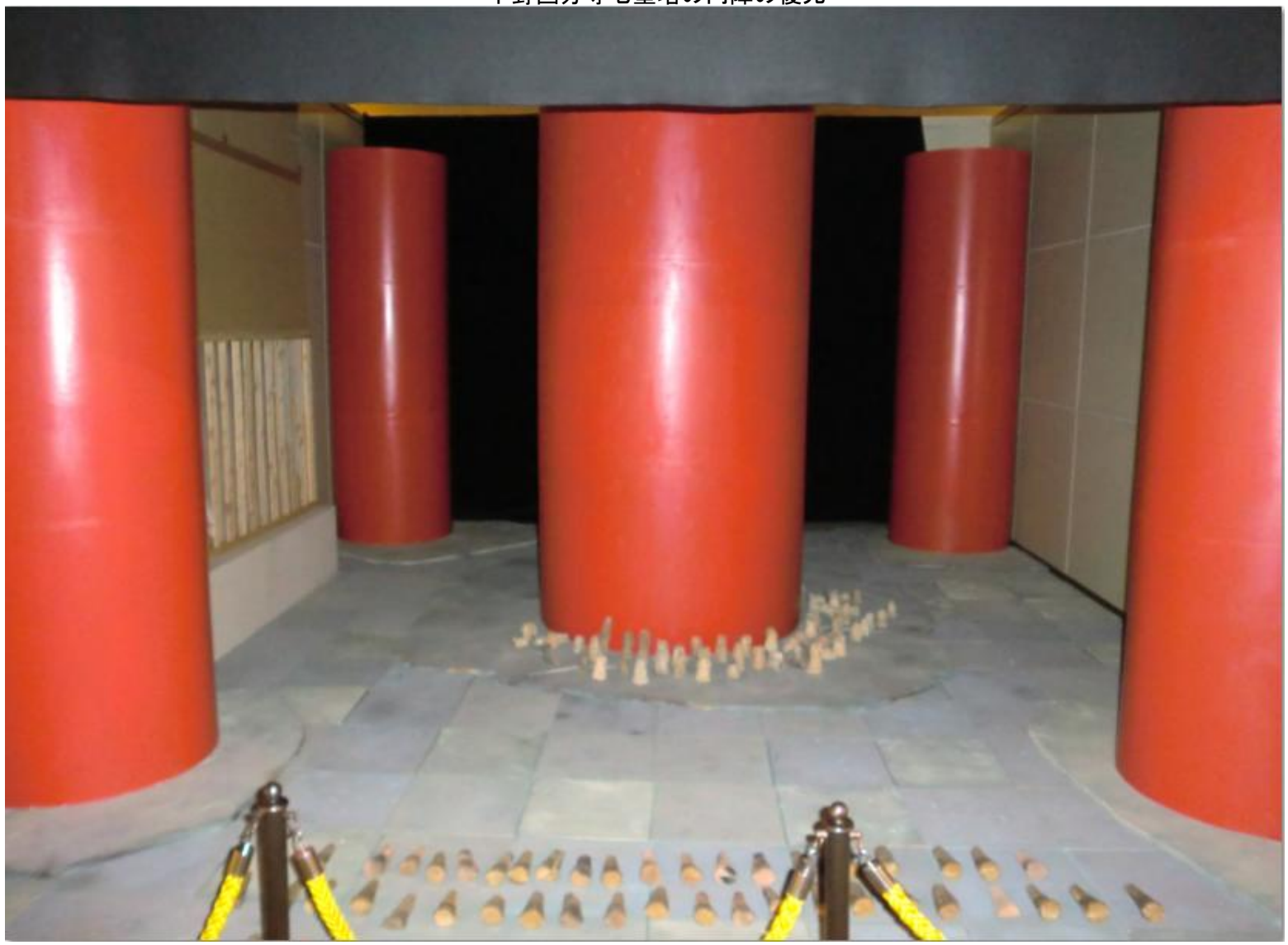
しもつけ風土記の丘には、JR 小金井駅と、東武線野州大塚駅をむすぶ首都圏自然歩道（関東ふれあいの道）が通っています。この歩道を利用すれば、下野国庁跡を経て、大神神社へ行くことができます。

栃木県立
しもつけ風土記の丘資料館

しもつけ風土記の丘資料館

下野国分寺の僧寺（左）と尼寺（右）の模型

下野国分寺七重塔の内陣の復元



下野国分寺七重塔内陣の復元

この展示は、下野国分寺塔跡の発掘調査成果をもとに、塔初層にあった内陣を原寸大で復元したものです。

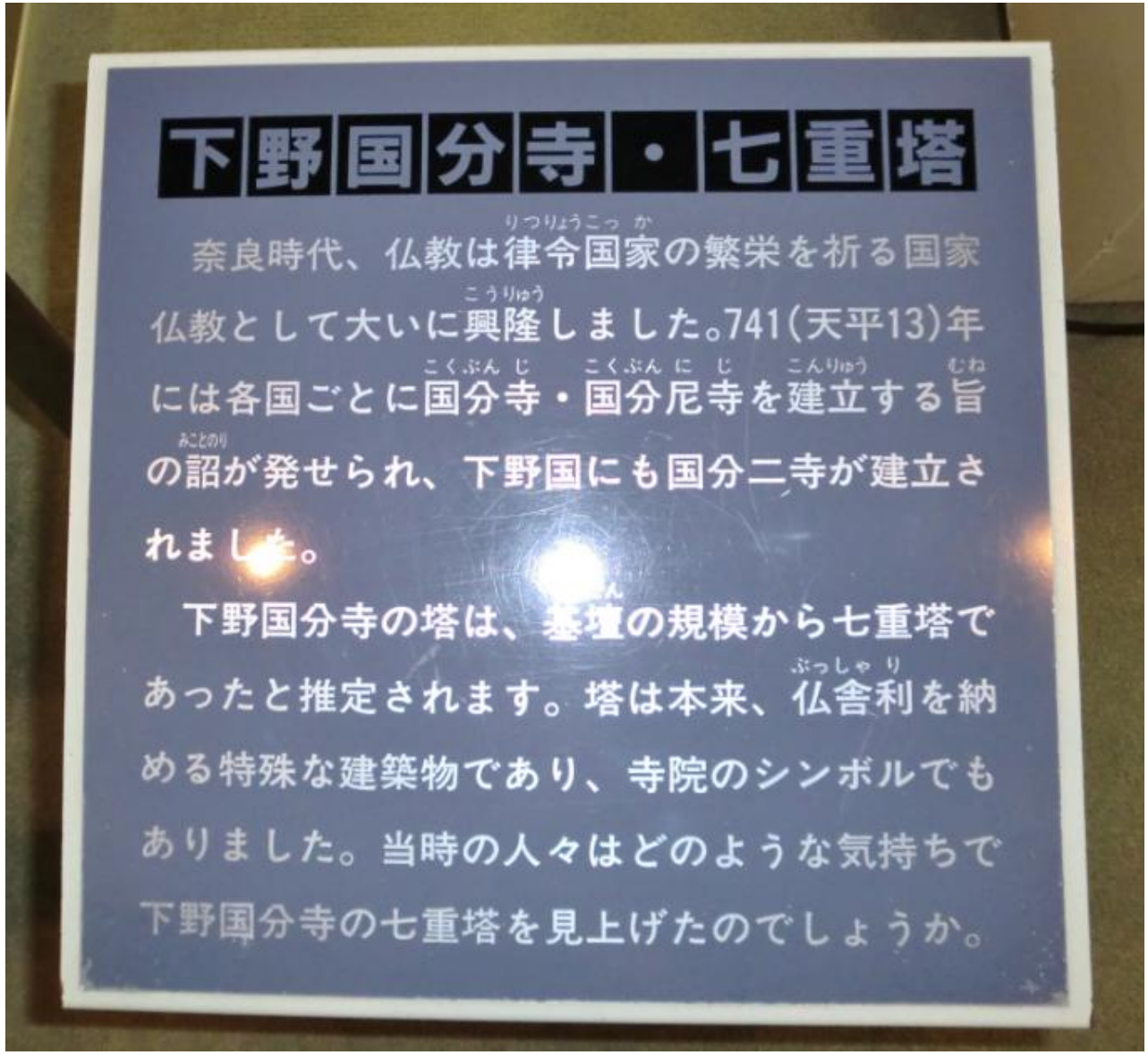
中央の心礎石は、約二、四メートル四方、まわりの四天柱礎石は、一、五メートル前後の巨石が用いられています。床に敷いてあるのは、石磚というハメ石です。出土品にある三十六センチメートルのものを基準に製作しました。柱は焼失した痕跡などから、心柱が直径百二十センチメートル、四天柱が直径七十五センチメートルで復元しました。

被災した塔跡の南と西からは、大量の泥塔が出土しました。そこで、出土品を心礎石周辺に展示しました。手前にあるのは、体験企画で製作された現代の泥塔です。

初層内陣の雰囲気を出すため、連子窓から差し込む程度の明るさにしてあります。向かいにある塔の二十分の一模型及び史跡下野国分寺跡の塔跡も御一緒にご覧下さい。

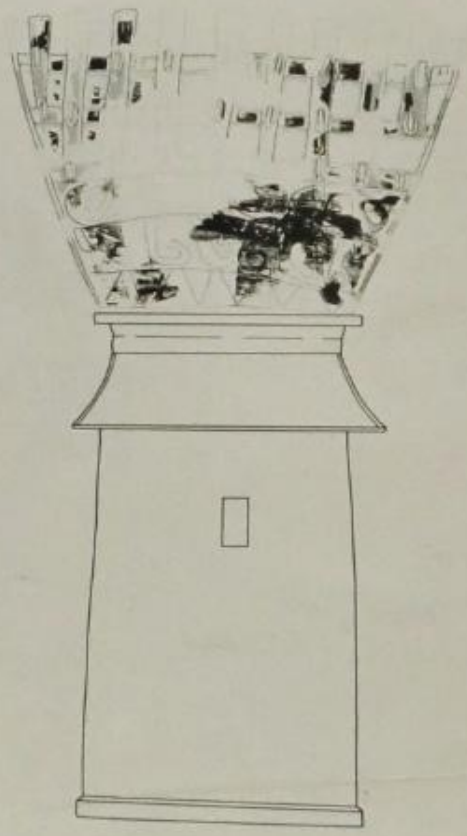
製作者　細島貴宏（柱担当）・小林希望（石磚担当　千葉大学学生）・富木愛育（礎石担当　筑波大学学生）
展示協力者　倉井武雄・橋本澄朗・田中嘉久・東海林真衣・富久久子・梅津勇津　設計・監修　篠原裕一

下野国分寺七重塔の模型


下野国分寺・七重塔
奈良時代、仏教は律令国家の繁栄を祈る国家仏教として大いに興隆しました。741(天平13)年には各国ごとに国分寺・国分尼寺を建立する旨の詔が発せられ、下野国にも国分二寺が建立されました。
下野国分寺の塔は、基壇の規模から七重塔であったと推定されます。塔は本来、仏舎利を納める特殊な建築物であり、寺院のシンボルでもありました。当時の人々はどのような気持ちで下野国分寺の七重塔を見上げたのでしょうか。

入母屋造家形埴輪

茶臼山古墳出土家形埴輪復元図



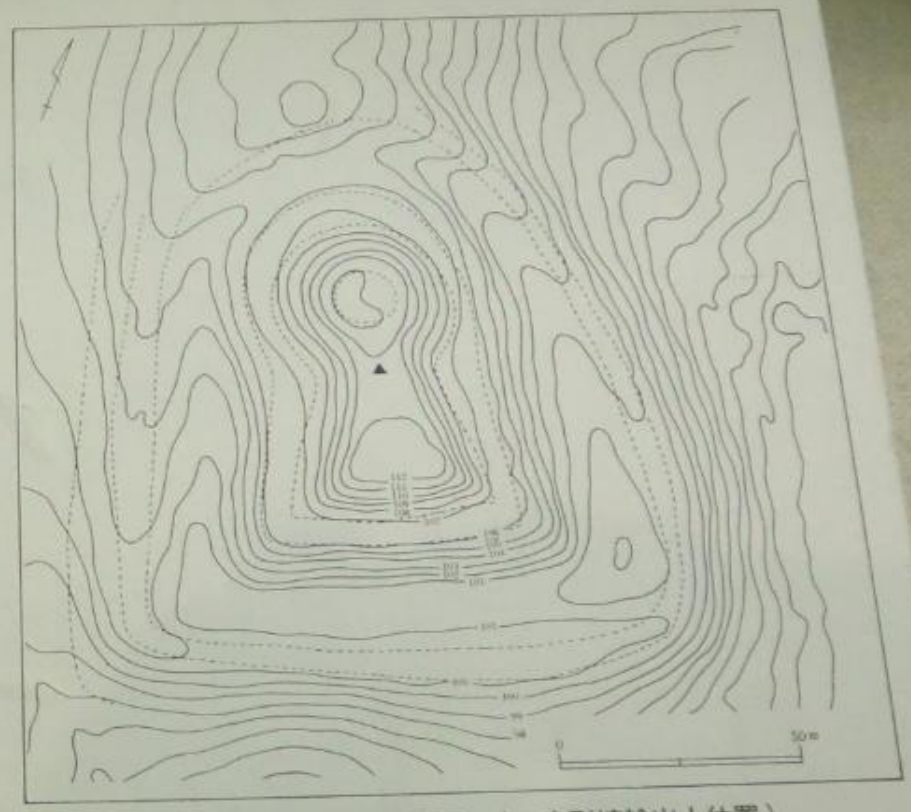
従来、天地根元造家形埴輪は、①壁面をもたない竪穴住居を表現②切妻造家形埴輪の屋根の表現という考え方が主流をしめていますが、ここでは入母屋造家形埴輪の切離することのできる屋根上半部を表現したものと考えたいと思います。これは、入母屋造家形埴輪の屋根上半部と下半部とを別作りにしてのちにはめ合わせる型式の家形埴輪です。

（東国型の組合式入母屋造家形埴輪）

茶臼山古墳　（壬生町）

茶臼山古墳は、壬生町の富士山古墳の西にある、全長91ｍの前方後円墳です。６世紀後半に、富士山古墳に次いで造られました。

家形埴輪は、墳頂のくびれ部から出土しました。棟上には９本の板格子があり、下半分の文様帯は３段に分かれています。



茶臼山古墳測量図　（▲家形埴輪出土位置）

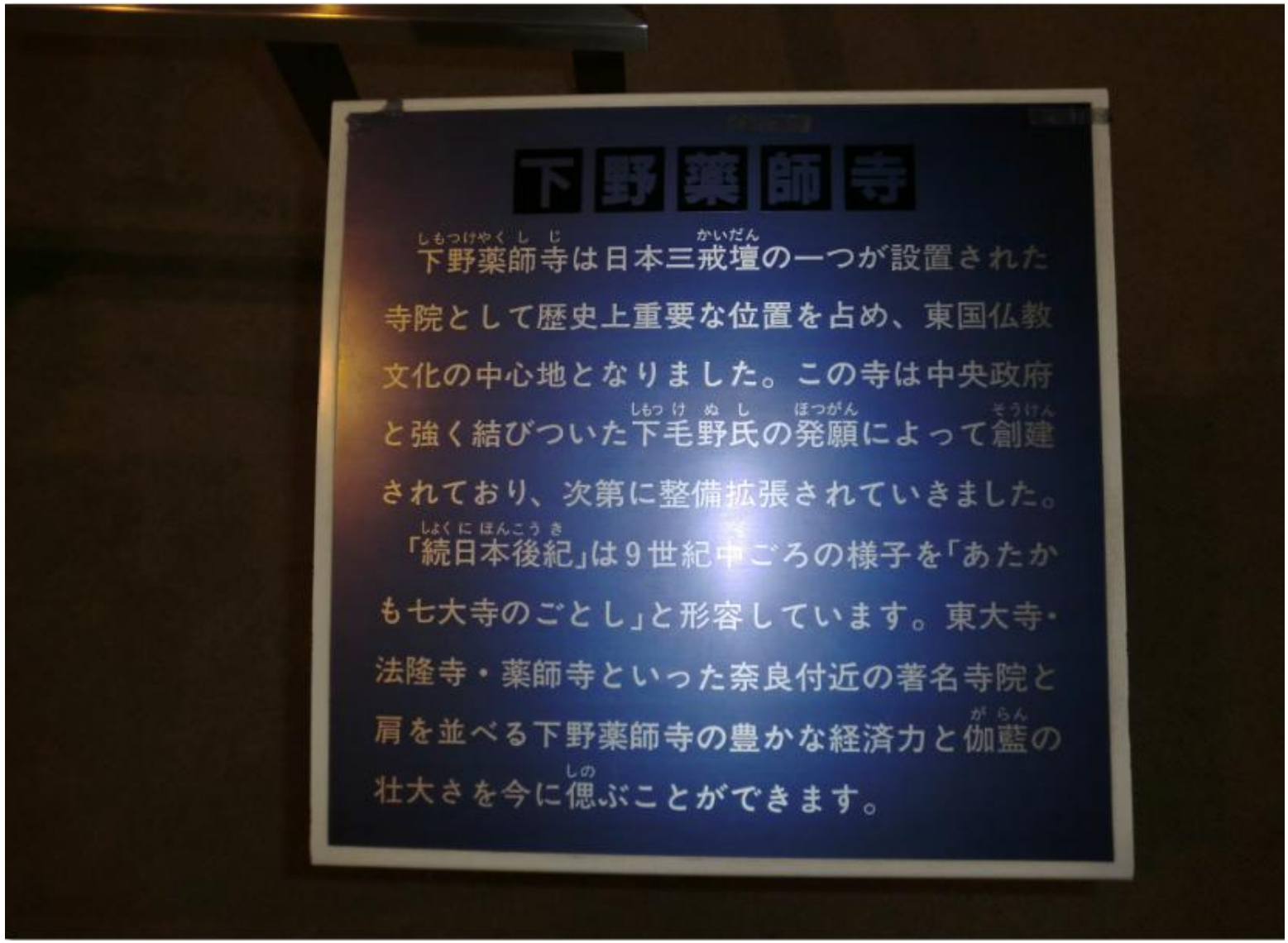
下野薬師寺金堂の軒先の復元

下野薬師寺金堂軒先推定復元模型

〔実物大〕

下野薬師寺金堂の軒先を、実物大に復元した模型です。瓦屋根の葺き方は、後の男瓦の太い方で前の男瓦の細い方を覆うように順々に重ねて葺いた行基葺です。

鬼瓦（蓮華文）・鐙瓦（八葉複弁蓮華文）・宇瓦（三重弧文）はいずれも、下野薬師寺創建期の瓦であり、白鳳期の特徴をよく示しています。

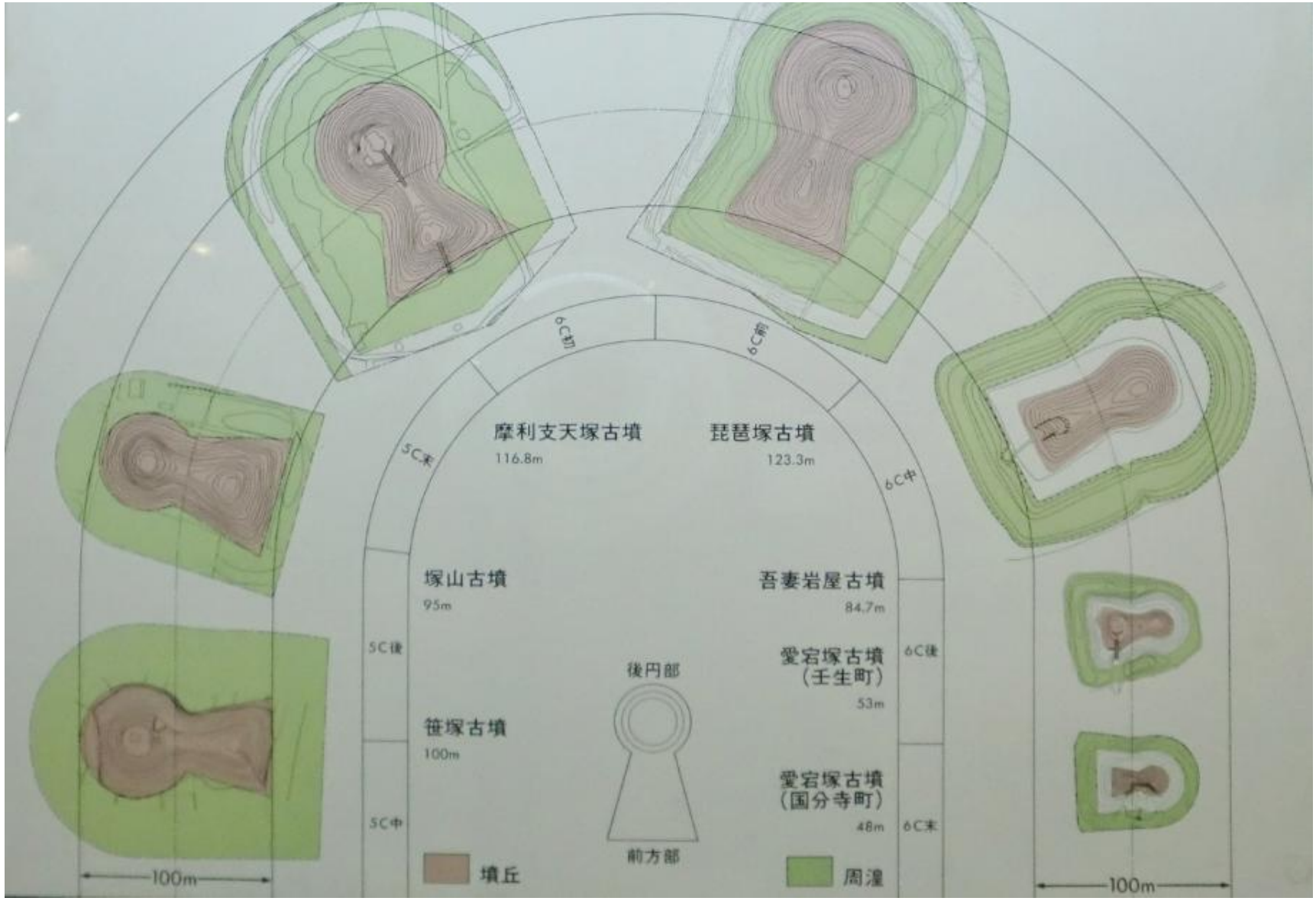

下野薬師寺
下野薬師寺は日本三戒壇の一つが設置された
寺院として歴史上重要な位置を占め、東国仏教
文化の中心地となりました。この寺は中央政府
と強く結びついた下毛野氏の発願によって創建
されており、次第に整備拡張されていきました。
「続日本後紀」は9世紀中ごろの様子を「あたか
も七大寺のごとし」と形容しています。東大寺・
法隆寺・薬師寺といった奈良付近の著名寺院と
肩を並べる下野薬師寺の豊かな経済力と伽藍の
壮大さを今に偲ぶことができます。

下野国庁の復元模型

下野国府第Ⅱ期（756年ごろ）の国庁模型

下野国府政庁
国府政庁の施設は、築地塀などによって方形に区画され、敷地の中には、北寄りの正面に正殿をおき、その前に東西に細長い前殿、その東・西両側に向かい合う長大な脇殿を配置するものでした。前殿の前面は広場となっています。ここでは政治と儀式が行われています。
政庁の建物は、8世紀前半から10世紀初めごろにかけて4期の変遷があったことがわかっており、この模型は、Ⅱ期(8世紀後半)の様子を100分の1に縮尺して復元したものです。

下野市周辺のさまざまな前方後円墳


6C初
6C後
摩利支天塚古墳
116.8m
琵琶塚古墳
123.3m
5C末
6C中
塚山古墳
95m
吾妻岩屋古墳
84.7m
5C後
6C後
後円部
愛宕塚古墳
（壬生町）
53m
笹塚古墳
100m
愛宕塚古墳
（国分寺町）
48m
5C中
6C末
前方部
墳丘
周濠
100m
100m